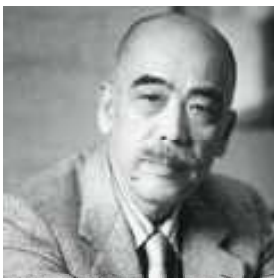


テレビ創生期の名プロデューサー

萩元 晴彦 (はぎもと はるひこ) **堀金** (下堀※飯田市生まれ) 出身

〈萩元晴彦が活躍した時代〉1930〈昭和30〉年～2001〈平成13〉年 享年71歳

昭和		平成													
昭和5	20	24	28	29	45	58	平成10	13							
へれ飯 移田 る幼市 少馬 の場 頃町 に松生 本ま	日のに 井創転 吉刊校 見をし と契一 出機一 会に展 作望校 家一	(に疎 現移開 のりた 深松め 志本堀 展高中金 望校学 校川	疎 開 のりた 深松め 志本堀 展高中金 望校学 校川	早 稲 田 入 学 学 シ ア 文	S ラ ジ オ 入 東 京 社 (現 T B	を第 一受 げの るの 。郵 政部 大 門ク シ 術 術 臣 賞	録 祭 番 。郵 政部 大 門ク シ 術 術 臣 賞	一初 就任 立 B S 社 員 と 共 に を 制 マ	作一初 就任 立 B S 社 員 と 共 に を 制 マ	企 画 二 ・ 制 作 す る 。ス オ ル を 1	サ 代 ン に 総 合 リ ブ ロ ホ ・ デー ス オ ル を 1	画 成 功 す る 。九 五 の	大 陸 を 結 ぶ 中 一 当 の 五 の	長 野 オ リ ン ピ ッ ク 開 会 式 の 宇 宙 中 継	る病 九 月 の た め 、 亡 く な



「テレビに何が可能か」を問い続け、番組制作に打ち込む

萩元晴彦は、二人の同僚(村木良彦、今野勉)と共に1970年にTBSを退社し、番組制作会社「テレビマンユニオン」を創設した。「テレビに何が可能か」を問い続けていた萩元らは、テレビ局という組織を脱却した番組制作を推し進めることで、その可能性が追求できると考えたのである。既存する伝統的価値観にとらわれないことで、番組制作の無限の可能性を実現していけると信じ、実行していくのである。萩元は宇宙中継という斬新な企画にも挑戦し失敗も経験する。しかし、その経験が長野オリンピック開会式プロデューサーの際に活かされ、五大陸を結ぶ「第九」合唱の宇宙中継実現となる。常に追究し続ける挑戦をしてきた萩元の偉大さに私たちも学びたい。

テレビマンユニオンとは？



制作者が放送局からはなれて独立した、**日本最初の独立テレビプロダクション**。

「大きな会社に所属していても、制作者として自立できない。」という信念をもって自立を実現。

その後は、「自立」「独創」「自由」「自主」を柱とした番組制作に情熱を注ぎ、数々の名番組を生み出している。

制作した名番組の数々

3時間ドラマ「海は甦える」(TBS)、音楽におけるレギュラー番組「オーケストラがやって来た」(TBS)、アーサー・C・クラークの「宇宙からの証言・地球。」(ANB)などは、1970年代、1980年代のテレビ番組の方向性を示していきました。

また、テレビマンユニオンは、エンターテインメントにも新しい演出を生み出しました。

1977年に生まれた「アメリカ横断ウルトラクイズ」(NTV)は、クイズとドキュメンタリーを合わせた新しいクイズ番組で、視聴率は30%を何度も越えるヒット作となり、その技法は「高校生クイズ」に引き継がれています。

1986年には「世界ふしぎ発見！」(TBS)が生まれました。司会の草野仁、名レギュラーの黒柳徹子、板東英二、野々村真らの個性が魅力的で、歴史をクイズにした知的エンターテインメント番組の最高傑作といわれています。

企業理念として掲げている「プロフェッショナル」とは？

自立したプロフェッショナルであることが、テレビマンユニオンの絶対条件です。テレビマンユニオンのプロフェッショナルとは、人間の尊厳、社会の尊厳、宇宙・地球の環境の尊厳を大切にすることです。

番組制作者である前に我々は一一人一人の人間です。その視点で「人間を見る」「社会を見る」「自然を見る」という人間主義(ヒューマニズム)を貫くことが番組制作にも大きく影響をします。

人間に対しつねに興味をもち、愛情をもって人間の心に接することこそが、プロフェッショナルだと考えます。



↑1986年から続く人気番組「世界ふしぎ発見！」

参考文献等：HP「安曇野市ゆかりの先人たち」「テレビマンユニオン公式ウェブサイト」
「お前はただの現在に過ぎない」朝日新聞出版 「萩元晴彦著作集」郷土出版社